

事業区分	文化芸術事業		育成・創造事業			
事業名	鳥取プラスアカデミー					
目的・内容	<p>【目的】 吹奏楽活動の入り口ともいえる中学吹奏楽部員を対象に、部活動、吹奏楽連盟主催のクリニックとは異なるアプローチによるワークショップ、クリニックを開催することで、生徒の“音楽に親しむ感性”を刺激し自主性を育むことで中・長期に渡り継続的な文化人口の拡大、人材の育成を目指す。</p> <p>【事業計画の柱】 子どもや青少年のための文化芸術活動体験の充実</p> <p>【内容】 ①演劇的アプローチによるワークショップ～表現する楽しさを知ろう(講師:東京演劇集団風 西垣 耕造) ②音楽的アプローチによるワークショップ～音を奏でる楽しさを知ろう(講師:仲田 守)</p>					
開催日	①平成26年9月21日(日)9:00～12:00		②平成27年2月15日(日)9:00～17:00			
会場	①緑水園		②米子市立尚徳中学校			
参加費	無料					
実施状況	参加者数	①129名 ②62名				
事業費状況	予算額	収入	5,000円	支出	1,595,000円	収支比率 0.3%
	決算額	収入	0円	支出	338,979円	収支比率 0%
参加者アンケート(主なもの)	<p>①コミュニケーションワークショップ ・プロの指導を受けられたことで、演劇に対する視野が広がりました。 ・いろいろな学校の方と交流でき、自分の輪が広がりました。 ・演技をするうえで、まずは相手を受容することの大切さ、遊ぶ心の大切さがわかってよかったです。 ・最後のグループポエム、みんなの言葉が重なったときには感動しました。</p> <p>②演劇スクール ・普段の部活動で学べないことをたくさん学ぶことが出来て良かった。他に他校の生徒達からもいろいろと学ぶことが出来たし、普段の先生以外に教えてもらったことは新鮮で良かった。 ・すごく熱気あふれるこの企画の中で、自分では気づけなかったクセや演劇の役者の見え方など、知らなかったことをたくさん知りました。 ・他の学校の人と仲良くなれたし、無茶な挑戦を共有できて楽しかった。いつもの自分にはない役が出来て良かったし、自分はまだまだだと改めて知ることができた。 ・高校生の導き方を学ばせていただいたことが良かった。特に限られた時間の中で、演技や演出意図の理解について力を伸ばすにはどうすれば良いか、参考になることを多く学ばせていただいた。(顧問)</p>					
1次評価(内部)	<p>【成果】 ・第3期選抜バンドの活動開始時期に、これまで吹奏楽連盟が取り組んでこなかった異なるジャンル(演劇的手法)を用いたワークショップを行ったことにより、異なる学校から集まった生徒による選抜バンドメンバーのコミュニケーション能力の向上や、他者を理解する、という点に気付くきっかけを与えられた点は成果である。 ・平成27年度に実施予定の選抜バンドメンバーによる県外遠征に関連し実施した音楽的クリニックについては、遠征で演奏する楽曲の指導のみに留まらず、日常的な基礎練習で取り組むべき点、なぜその練習が必要なのか、と言った、これまで生徒が(教員も)意識しない点に注意を向けるよう促すことが出来た点、演奏の注意点を、その曲のみの注意点ではなく、音楽全体に共通する注意点であることを生徒・教員が気付くことが出来たことは非常に有意義であった。</p> <p>【課題】 ・吹奏楽連盟との共済事業ではあるが、今年度は西部地区の生徒の多い選抜バンドの活動のみに特化してしまった点。 連盟は全県の組織であり、また、生徒の移動の問題も含めて、一度に全県下より生徒を集め事業を行うことは困難ではあるが、今後徐々に全県規模の事業とすることが重要である。 ・選抜バンドに関係する教員以外の見学等を促すことが出来なかった点。 実際に受講するのは生徒ではあるが、どういった内容の事業を行うのか、生徒の反応はどうか、といった点を、参加校以外の教員、指導者に向けて発信出来なかったことは、次年度以降改善する点である。 ・鳥取県中学校選抜吹奏楽団の活動は、該当年度秋季から翌年度春季までの半年間であり、該当年度の2年生(次年度3年生)が対象であることから、参加校の次年度の部長、副部長等のリーダー候補者が集う団体であると言える。当事業を実施することにより、学んだ生徒が、自身の学校に内容を持ち帰り、学んだ成果が間接的に広く波及するよう、意識付けることが必要。</p>					
2次評価(財団評議員)	<p>[事業概要] 異なる学校から集ったメンバーが吹奏楽という共通点を通じてゲーム感覚で自己表現をし、自らに気付くとともに、中学生として自分と他人との関係に気付かせようとする方向性は評価できる。</p> <p>[事業プロセス] 容易な内容から複雑な内容へ、浅い部分から深い部分へすすめていく講師の指導法は評価できる。</p> <p>[成果] 体験することにより得られるものは参加者が感じていると思う。 これにより自分自身のコミュニケーション能力の開発をするとともに、今回の成果は今後彼らがいろいろな部分で発揮出来ると思う。 人材の活性化の視点では効果的である。</p> <p>[課題等] 同じ集団(今回の参加者)で複数回実施して評価する姿勢が必要と思う。 自らをさらけ出すことができにくい生徒が少し気になった。 中学生独特の世代へのサポートのあり方を考えるヒントとしていくことが今後の指導に必要と考える。</p>					
今後の対応、取組状況	<p>・中部地区の教員より、中部地区でも今後鳥取県中学校選抜吹奏楽団のように地区内の学生に対し指導・育成を行う活動を行いたいという話が出てきたことから、今後全県規模の実施ニーズが出てくるのが考えられる。今後は、そういったニーズを精査しつつ、単純な育成ではなく当事業の目的に沿った内容を開発者と協議しながら発展、継続させていくこと。 ・鳥取県中学校選抜吹奏楽団の活動及び当事業の実施について、吹奏楽連盟からの連絡と併せて、財団からも各学校に周知することにより、選抜吹奏楽団に参加する学校の指導者のみではなく、参加校以外の指導者、生徒も見学できる環境を整えていく。 ・活動年度が複数年度に及ぶため、対象の生徒に対し、どの年度にどのようなアプローチを実施するのか検討すること。また、選抜吹奏楽団参加者については、自身の演奏技術の向上のみではなく、所属校の代表として参加している意識を持てるよう導く。</p>					